

氏 名	長谷川 功
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6093 号
学位授与の日付	令和元年 12 月 27 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Clinical and biochemical characteristics of patients having general symptoms with increased serum IgG4 (高 IgG4 血症患者の臨床的および生化学的特徴)
論文審査委員	教授 鵜殿平一郎 教授 和田 淳 教授 柳井広之

学位論文内容の要旨

目的：一般内科を受診する高 IgG4 血症の患者を鑑別するために有用な臨床的特徴および血清学的特徴を見出す。方法：血清 IgG4 値が 135 mg/dL より高値の 56 人の患者を最終診断に基づいて IgG4 関連疾患確診群・IgG4 関連疾患疑診群・その他の群の 3 群に分類し、3 群の患者の臨床的および生化学的特徴を遡及的に分析した。結果：全症例の主な初発症状は腎機能障害と全身倦怠感であり、確診群において口渴感は最多の症状であり、障害臓器は頸下腺とリンパ節であった。小唾液腺の生検は、頻度は多いにもかかわらず IgG4-RD の診断率は最も低かった。確診群では、他群に比較し血清 IgG4 と血清 IgG 値、IgG4/IgG 比と好塩基球数は増加するも、血清 CRP、血清 IgA と補体価は低下した。確診群において血清 IgG4 と血清 IgM の間に負の相関が見られた。結論：腎機能障害、全身倦怠感、口渴感または体重減少を伴う患者では、好塩基球・免疫グロブリンおよび補体価の測定が IgG4-RD の診断に役立つことが示された。

論文審査結果の要旨

高 IgG4 血症における IgG4-related diseases(RD)を他の高 IgG4 疾患群と鑑別するための臨床的特徴および血清学的特徴は未だ明らかにされていない。

本研究では、血中 IgG4 値を測定した 225 人の患者から、測定値 >135mg/dL の 56 人を対象に、IgG4-RD の確診群、疑診群、その他、の 3 群に分類し、遡及的に確診群を見分けることのできる特徴を分析した。その結果、確診群では他群と異なり、IgG と IgG4 は正の相関を示す一方、IgM と IgG4 は負相関を示すこと、また、IgA、補体 C3、C4、CRP は低値を示すことがわかった。また、好塩基球細胞数は高値を示した。

委員からは、IgG4-RD に関する一般的な質問等がなされたが、概ね適切な質疑応答がなされた。

本研究は、全身倦怠感、口渴感、体重減少を主訴に来院する患者で、腎機能障害、血中 IgG4 を呈した IgG4-RD の鑑別診断における臨床所見を明らかにしたものであり、価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める